

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立津久井中央小学校（神奈川県）

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」 ・学びを深めるために効果的なICTの活用について共有

6年生の実践(3枚目のスライドを意識した点についてまとめる) 体育科「ピタッ・ブンッ・クルッ！スムーズにわざを決めよう (鉄棒運動)」

最後のゴールの姿として、
Google Sitesで鉄棒動画集を作成した。



(鉄棒運動)

学習中も動画を撮影し、自分の動きを見ていた。そうすることで、自分に足りない部分を知り、その後の練習に活かした。



動画で見るだけでなく、実際に見てもらいながらのアドバイスも受けることで、意欲的に学習に取り組むことができた。

<https://sites.google.com/sagamihara-kng.ed.jp/tsukuiichuo-tetsuboudoug>

5年生の実践(3枚目のスライドを意識した点についてまとめる)

これらすべてをClassroomの「授業」に貼り付け、タブレットのみで授業を行った。

学びのプラン(PDF)

学びのプラン

1. 目的 (知識・技能、思考力・判断力・問題解決力、学びの態度)
2. 学習活動 (学習活動の計画)
3. 評価 (学習活動の評価)

学習活動	評価
学習の進捗を確認する	学習態度、学習成果
学習の進捗を確認する	学習態度、学習成果
学習の進捗を確認する	学習態度、学習成果

各時間の学習活動や、身に付けてほしい力等を確認し、見直しをもって参加できるようにした。



教師と各個人のやりとりが可能な設定にした。



児童同士のスライドが閲覧ができる設定にした。

振り廻り&比較(スプレッドシート)



振り廻りシートの記述内容によって色づけし、評価した。



学習前と学習後に入力させた。

3年生の実践(3枚目のスライドを意識した点についてまとめる)

・ノートをばわかない授業 ・オクリンクの使用

- 共有や動き学習がすぐにできる
- 自分の考えと友だちの考えを比較しやすい
- 指導者がリアルタイムで児童の考えを確認できる
- △-そもそもタイピングスキルが低い
- △-考えをもっているが、考えを十分に表出させられない
- △-書くことに時間がかかって、授業が進まない
- △-PCにアクションが上がり、紙が入らない
- △-ノートのように記録できない分、範囲に全く触れない
- △-ノートのように記録すると時間がかかって進まない

1人学び→交流 をスライドで

- 4枚のスライドを配信
- 自分が取り組みたい枚を選び、1人学び
- 4枚のスライドが完成できるように交流

わかりやすく伝えるために、教科書を読み込み、補加する部分はすべてスライドを作っていた。

振り廻りの見える化



ミニテストで確認

スライドをうめて終わりでなく、ミニテストで定着をはかる
何回でもできるので、覚えられないまで繰り返しやる児童も

○ふりかえりを共有することで、何を言っているかが分からない子が参考になる

△全員が編集できるため、勝手に消されてしまう
→スプレッドシートの範囲保護機能



津久井中央小学校では「子ども一人ひとりが主語となる授業」を展開していくことで「自立した学習者の育成」を目指している。そのためにインプットとアウトプットの両面で、必然性、必要性、有用性のあるICT活用を探っていく。
2学期末には、各学年の取組についてスライドにまとめ全職員で共有した。